

2020年度業務実績報告書

提出日 2021年 1月 20日

1. 職名・氏名 教授 杉村 和彦

2. 学位 学位 博士、専門分野 農学、授与機関 京都大学、授与年 2003年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）主たる担当年次など 文化人類学（4単位）毎年開講）1－2年生
②内容・ねらい（自由記述） 本年度の講義では、人類史の中心をなした主要な生活様式として、狩猟・採集民、牧畜民、農耕民などの民族集団を取り上げ、その集団の自然観、労働観、互酬性などの文化的特性について考察する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） この講義では、映像、写真を多用し、できるだけ学生に、現場のリアリティを持ってもらうよう努めている。また一地域、一民族の事例が有する、普遍的な意味について、解説するとともに、同時に、現代社会とのつながり、日本文化との関係を提示し、様々な事例が、日常生活とつながる側面について理解できるように努めている。
① 担当科目名（単位数）主たる担当年次など 地域特別講義 「匠と現代」（4単位）毎年開講）1－2年生
② 内容・ねらい 本講義は福井の文化の一つの核である伝統工芸（和紙・漆、刃物など）の伝統と展開を、オムニバス形式で当代一流の匠たちに登壇していただき、世界に発信しうる地域文化の意味を比較の視点からとらえ直す。同時に、モノ作りにかけた幅の広い匠たちの生き方・考え方を通して現代社会における真の「仕事」とは何かを考える機会にする。また地域未来学として現代社会におけるそれぞれの伝統工芸の発展の可能性をスピーカーとともに受講生とともに考える。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 この講義では多くのスピーカーに登壇していただき、その生の声を聞いてもらうことを日等の軸においてきた。ただそれぞれの匠の技術的理解などは、匠の話を聞く前提として知識として持っておくことも必要であり、そうした話もたくみの話の前におくよう工夫をした。
① 担当科目名（単位数）主たる担当年次など 導入ゼミ（2単位）毎年開講）1年生
②内容・ねらい 1. アフリカに関する知識を深める。 2. 情報の収集、まとめと発表の方法を学ぶ 3. アフリカの社会・文化・歴史・自然などについて、討議を通して再検討することにより、世界についての新たな認識を得る。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 この授業を通して、アフリカをぐっと身近なものにしてみたいと考え、アフリカの社会・文化・歴史・自然などの概要をタンザニアという一つの国を中心に学び、参加者の関心に基づく研究発表によって、大学生にふさわしい学習・研究法を学ぶ。

①担当科目名（単位数）主たる担当年次など

教養ゼミ（2単位）毎年開講）1年生

② 内容・ねらい

“近代世界”は、アフリカの社会・文化を後れたものとして扱い、歴史なき世界として、アフリカの停滞した世界像を描いてきた。しかし今日、近代の世界像の揺らぎの中で、アフリカの文化・社会の特質と意味が再検討されつつある。アフリカという辺境の歴史的世界からわれわれの世界を考え直す契機とする。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

このゼミではヨーロッパを軸とした歴史記述の中で、これまでほとんど知られていないアフリカの歴史を身近なものにするため、アフリカでの歴史の動きを同じ時代の日本の歴史やヨーロッパの歴史とも対比しながら、比較史の中で世界史の中のアフリカの位置と特質を考えていくよう工夫した。

① 担当科目 学術ゼミ

現代社会の新たな文化・社会現象の内在的理解を目指して、各種文献を詳細に読み解く。

② 内容・ねらい

1. 時代の転換の中でアフリカが有する潜在力・可能性について思考をめぐらせ考える。
2. 1つの地域社会を総合的・学際的に理解する方法を学ぶ。
3. アフリカを深く理解していくためにアフリカの言語（スワヒリ語の初歩に関してもまなぶ機会を持つ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

本ゼミでは、「アフリカから学ぶ」という視点のもとに、参加者全員で議論を行う。「アフリカは面白そう」という人にも、「アフリカから学ぶことなんてあるのだろうか」という人にも是非一度門戸をたたいてほしい。人類の未来に向けて、アフリカが有する潜在力・可能性をゼミ生とともに考えてゆきたい。

(2)その他の教育活動

福井大学医学部 文化人類学

文化人類学の視点から現代が抱える問題のいくつかを解明していく。本年の講義では、アフリカ社会の中から生活様式を異にする、狩猟民・牧畜民・農耕民などの民族集団を取り上げ、その集団の自然観、労働観、蓄積様式、互酬性、社会構造、宗教などの文化的特性について考察することによって、「豊かさ」や「富」のあり様の多元性、多様性の可能性を明らかにする。また併せて文化ごとの死生観の差異についても学ばせ、医療人類学的発想の基礎を獲得させる。

4. 研究業績 ※前年度の業績のうち業務実績報告書提出時に間に合わず、記載していないものについては、今年度の業績として記載してください。

(1)研究業績の公表 ※年（2020 年 1 月～12 月）の実績をご記入ください。	
① 著書 （タイトル、共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ）、出版年、出版社名） Goran Hyden, Kazuhiko Sugimura, and Tadasu Tsuruta (eds), Rethiking African Agriculture-How Non-Agrarian Factors Shape Peasant Livelihoodspp.1-189. 2020. Routledge. Kenta Sakanashi, Kazuhiko Sugimura, and Tadasu Tsuruta “Shifting cultivator as generalist managers-The threat of “ saving the rainforest” Goran Hyden, Kazuhiko Sugimura, and Tadasu Tsuruta (eds) Rethiking African Agriculture-How Non-Agrarian Factors Shape Peasant Livelihoodspp.64-78. 2020. Routledge. Kazuhiko Sugimura,”Longstanding imprints of natural society-Toward a new science of agriculture in Africa” Goran Hyden, Kazuhiko Sugimura, and Tadasu Tsuruta (eds) Rethiking African Agriculture-How Non-Agrarian Factors Shape Peasant Livelihoods pp.110-124. 2020. Routledge. Goran Hyden, Kazuhiko Sugimura,Tadasu Tsuruta,”General Conclusions-Implications for research and policy” Goran Hyden, Kazuhiko Sugimura, and Tadasu Tsuruta (eds) Rethiking African Agriculture-How Non-Agrarian Factors Shape Peasant Livelihoods pp.141-155. 2020. Routledge.	【 4 本】
② 学術論文（査読あり）	【 本】
③ その他論文（査読なし）	【 本】
④ 学会発表等（ポスター発表、口頭発表等）	【 件】
⑤ その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績 ※年度（2020 年 4 月～2021 年 3 月）の実績をご記入ください。	
※「学外・学内」を分けて記載ください。	
【学外】	
【学内】	
2020 年度 学内競争資金〔戦略的課題研究推進支援〕「越前和紙の世界的展開と現代的可能	

性に関する実証的研究

—アメリカ・ヨーロッパにおける木版画利用を中心にして—

令和2年度 研究計画書〔地域連携研究推進支援〕「世界につながる和紙の里のプラットフォームの構築—AIR 事業との連携を中心に—」

(3)特許等取得 ※年（2020年1月～12月）の実績をご記入ください。

※「特許」、「品種登録」、「商標」等区別し、記載ください。

(4)学会活動等 ※年（2020年1月～12月）の実績をご記入ください。

※研究会活動等についてもこちらに記載ください

学会での役職など（学会名）

学会でのコメンテーター、司会活動（担当報告名、担当学会（大会）名（開催年月日））

2020年日本アフリカ学会公開シンポジウム

「アフリカ研究と社会との繋がりを考える—開発をめぐる対話」

杉村報告「援助から交流へ—地域と地域のつながりが電灯をともす」5月

学会・分科会の開催運営（担当学会（大会）名（開催年月日）、開催場所）

5. 地域・社会貢献活動

- ① 国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）
- ② 国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
- ③ （公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）

森のエネルギーフォーラム理事長

- ④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）
- ⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
（事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）
- ⑥ 公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講（タイトル名、開催場所、開催日時）

アフリカから学ぶ

ー福井青年海外協力隊の失敗学と希望の物語

第1回地域の多様なニーズと多様な福井人の出番 Zoom 10/15（木）19:00～21:00

ー地域と地域をつなぐ援助のかたちー

第2回協力隊員の失敗学をタンザニアのプロジェクトに生かす①Zoom : 10/22（木）19:00～21:00

ーウガンダの世界、ボランボラなどとの対話ー

第3回協力隊員の失敗学をタンザニアのプロジェクトに生かす②Zoom 10/29（木）19:00～21:00

ータンザニアの今と昔 2003 年と 2020 年を比べる

第4回協力隊員の失敗学をタンザニアのプロジェクトに生かす③Zoom 11/5（木）19:00～21:00

ーセネガルの世界との対話「鳥肌の共有（リングール昔写真展を通して）」ー

第5回草の根の援助の現場の「失敗学と新たな希望」Zoom 11/12（木）19:00～21:00

：感染症・人類・社会

ー新型コロナウイルス感染症を考える 4 つの視点ー

第1回 文明・定住革命・感染症・人類学から考える Zoom 11/24（火）18:30～20:00

⑦その他（名称、活動場所、活動期間）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(職名 (副学長、部局長、学科長、研究センター長、保健管理センター副センター長 等)、期間) 学術教養センター長 H29.4～現在に至る
(2)委員会・チーム活動
(3)学内行事への参加
(行事名、参加日時) オープンキャンパス 7月19日
(4)その他、自発的活動など
(活動名、活動内容、活動期間)